

■ 研究交流 ■

## 「国立台湾大学」訪問の記

杉谷嘉則<sup>1,2</sup>

### Report of Joint Symposium held at National Taiwan University

Yoshinori Sugitani<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup> Department of Chemistry, Faculty of Science, Kanagawa University, Tsuchiya 2946, Hiratsuka, Kanagawa 259-1293, Japan

<sup>2</sup> To whom correspondence should be addressed. E-mail: sugitani@kanagawa-u.ac.jp

昨年（2006年）12月21日から24日にかけて国立台湾大学(National Taiwan University, NTU)を訪問し、第2回合同シンポジウムに参加してきた。一行4名で生物科学科から竹内重夫教授と鈴木祥弘助教授、化学科から山口和夫教授と私（杉谷）が参加した。この企画は、本理学部化学科とNTU化学科との学術交流協定に沿ったものである。第1回シンポジウムは2006年1月に本学湘南ひらつかキャンパスで行われ、NTUから陳竹亭(Chen, Jwu-Ting)教授、劉緒宗(Liu, Shih-Tzung)教授、邱勝賢(Chiu, Sheng-Hsien)助教授の3名が参加された。さらに先立って、2005年3月には竹内敬人教授（当時）と森和亮教授がNTU（およびその他の大学）を訪

問され、その際、化学科間の協定文書が取り交わされた。協定の趣旨は、合同シンポジウムを通じて、相互の学術交流を発展させ、併せて将来的には学生の交流にまで広げよう、というものである。

21日夕方台湾に到着、一泊して翌日から行動開始であったが、先方のお取計らいで、その日午前中は故宮博物館見学(後述)、午後は近郊の北投温泉訪問、そして夕刻から双方参加で大学組織の概要を紹介し合うこととなっていた。しかしながら温泉訪問は時間もきつそうなので代わって台湾科技大学を表敬訪問する、ということに変更していただいた。その故は神奈川大学と国立台湾科技大学は大学間で協定関係にあり、かつ、廖徳章(Liaw, Der-Jang)教授に



図1. 国立台湾大学正門前で。中央のお方が、陳教授。

は 2006 年の夏に本学工学部および理学部で集中講義をしていただいた関係もあり、同教授が出張留守中であることを承知の上で訪問した。化学関係の方々が急遽集まって研究室や施設を案内して下さった。この台湾科技大学は NTU の東南側に高速道路を隔てて位置しており、面積は台湾大学の 4 分の 1 程で、もともとは NTU の一部だったものが分離独立した由である。

合同シンポジウムは 23 日に行われた。その時のプログラムは表 1 のとおりである。双方から 4 名ずつがスピーカーとなり、計 8 件の発表が行われた。シンポジウムといっても主題を定めた研究発表会というだけでなく、双方それぞれの研究紹介という体裁で行われ、私は高周波分光法の話、竹内教授は本学理学部生物科学科の活動全般についての紹介、山口教授は感光性自己組織化単分子膜の話、鈴木祥弘助教授は北海道サロマ湖の海氷藻類についての発表であった。

そもそも今回の訪問に生物科学科の 2 人の先生が参加されたのは、今後、本学と台湾大学の交流を進めるに際して、化学のみならず生物の領域にもパイプを伸ばしたいという我々の希望に基づいており、NTU 側もそれに好意的に対応してくださり、生命科学学院院长の羅竹芳(Lo, Grace Chu-Fang)教授もスピーカーの一人としてご自分の研究およびライスサイエンス部の構成と活動についてお話くださった。NTU の創立は偶然にも本学と同じ 1928 年(昭和 3 年)である。日本の台湾統治時代に台北帝国大学として設立されたものである。その故であろう、大学構内のたたずまいは日本の旧帝大系国立大学のそれに非常に近いものがある。正門(図 1)からメインの大通りを進んでいくと、左右に古色の建物が並んでおり、雰囲気としてはとくに北海道大学のそれにそっくりの感じを受けた。通りの左右にはヤシの



図 2. 構内のメイン通り。向こう正面の建物は中央図書館。

木が並んでおり(図 2)、これも日本人の設計になるものと伺った。化学教室は、大通りを少し離れたところにあつて新しい高層建築の全体がそれである。あと 1~2 年のうちに、この建物に隣接して倍の規模に増設されるとのこと。この化学教室だけでおよそながら本学理学部全体に匹敵(床面積、所属人数ともに)する程である。活動ぶりも全体に発展的雰囲気満ちていた。

今回の台湾訪問で仕事を離れたお楽しみは、故宮博物館の訪問であった(図 3)。台北市中心部から車で 30 分足らずのところにある。最近になって豪華な建物が 2 棟新築され、その 1 棟(本館)がオープンされたばかりであった。われわれは開館少し前に到着し待つこと少々で入館できた。紀元前 3、4 千年前からの逸品が整然と陳列され、その分量も多くてとても一日では見切れない。午後の予定(台湾科技大学訪問)もあるため午前中しか見学できなかったが、それだけでも結構疲れた。はじめは館内も空いていたが時間が経つにつれて小中学生や一般人の団体が



図 3. 故宮博物館の前で。

次々と来館し、我々が去る頃には館内は人でいっぱいになった。この日見学した本館には、主として古代からの出土品や工芸品が展示されていたが、もう 1 棟のほうは外観がすっかり出来上がっていたがオープン直前とかで中を見学することはできなかった。こちらは書や絵画などが展示されているようで、私個人としては王羲之の真筆を見ることなど期待していたが適わず残念であった。いずれ機会をみつけてまた訪問したいものと思っている。

今回の台湾訪問とシンポジウムを一応無事に果たすことができ一同喜んでいる。次回シンポジウムには、今度は台湾から 2007 年 10 月ごろを目途に何人かで来日されることになっている。ますます充実したものになればと願っている。

表 1. シンポジウムのプログラム

<b>2006 KU and NTU Joint Symposium on Chemistry and Life Science Department of Chemistry, National Taiwan University, Taipei, Taiwan</b>	
<b>Date: December 22, 2006      Location: R218, Department of Chemistry, NTU</b>	
16:00-16:30	Introduction to Department of Chemistry, National Taiwan University
16:30-17:00	Introduction to Kanagawa University
17:30-19:00	Faculty Party
<b>Date: December 23, 2006      Location: R121, Department of Chemistry, NTU</b>	
08:50-09:00	Registration
09:00-09:10	Opening, Chung-Yuan Mou, Professor, Department Chairperson
Chairman, Shiuh-Tzung Liu, Professor, Deputy Dean, College of Science	
09:10-09:50	Yoshinori Sugitani, Professor, Dean of Faculty of Science <i>New measuring system of High Frequency Spectroscopy and its application to the analysis of water - contained materials</i>
09:50-10:30	King-Chuen Lin, Professor <i>Applications of Cavity Ring-down Absorption Spectroscopy in Gas Phase and Surface Chemistry</i>
10:30-10:50	Coffee & Tea
10:50-11:30	Shigeo Takeuchi, Professor <i>An outline of activities in Department of Biological Sciences, Faculty of Science, Kanagawa University</i>
11:30-12:10	Chu-Fang Lo, Professor, Dean of College of Life Science <i>Research Activities in the Crustacean Virology Laboratory at NTU's College of Life Science</i>
12:10-13:30	Lunch (Location:R117)
Chairman, Sheng-Hsien Chiu, Associate Professor,	
13:30-14:10	Kazuo Yamaguchi, Professor <i>Photosensitive Self-Assembled Monolayers Based On Silane Coupling Agents Containing Carboxy Group Protected As Photocleavable 2-Nitrobenzyl Ester</i>
14:10-14:50	Jim-Min Fang, Professor <i>Direct Conversion of Primary Alcohols and Aldehydes to Nitriles, Amides, Triazines and Tetrazoles Using Iodine-Amine in Aqueous Media by One-Pot Tandem Reactions</i>
14:50-15:10	Coffee & Tea
15:10-15:50	Yoshihiro Suzuki, Associate Professor <i>Characteristic photosynthesis of ice algae in the northern part of Japan, maintained at the lowest temperature in the biosphere</i>
15:50-16:30	Chun-Chung Jerry Chan, Assistant Professor <i>Solid-State NMR and AFM Studies of Prion Fibrils</i>
16:30-16:45	Closing Remarks
18:00	Banquet